

# 七小校長室便り

開校51年目 国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.9 令和6年(2024年)2月1日

## 3学期が始まり、あっという間に2月です。

令和6年の新しい年とともに、令和5年度の3学期となりました。

先ずは、新年早々の能登半島地震によりお亡くなりになられた方々並びに被害に遭われた方々に、衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

学校としては有難いところではありますが、おおむね順調にスタートができ、三学期に行う教育活動を予定通りに進めることができています。

校庭では、縄跳びチャレンジ週間の取組で、多くの子供たちが、自分の目標に向かって、縄跳びの様々な技や跳ぶ回数に挑戦する姿がありました。学年の取組では、2年生が九九の習得のために、学年の先生以外にも、覚えた九九を確認してもらい、サインをもらっていました。校長室や職員室にもやってきては、自分の挑戦する九九の段を言っていました。

校内には、各学年の新春の書き初めが各教室前に掲示されていて、その他にも、はばたきの学習で取り組んだモップ筆で書かれた大きな文字「命」「希」「和」「信」等が職員玄関や階段にあって、清々しい気持ちにしてくれます。更には、子供たちが図工の授業で取り組んだ作品が、廊下や職員玄関等に展示されていて、気持ちよく学校生活ができ、安心できる場所となるように環境を整えています。(図工作品の展示の取組は、図工専科の伊藤主任教諭により行われています)

より良い学校生活とするには、様々な努力が必要です。子供たちが先生と気持ちを合わせながら、毎日の学校生活での様々な出来事や経験を、しっかりと前向きに受け止めることができるように、そして、より良い体験や経験となるように懸命に努めています。保護者の皆様にも、更なるご理解をいただき、ご協力の基に、楽しくも有意義な七小の学校生活を積み上げてまいります。

3学期もあっという間に2月を迎えました。今の学年での最後の取組や学習活動を充実させ、次の学年への進級、進学に向かってまいります。これからも、何か心配事やお気付きのことがございましたら、担任はもちろんのこと、学校までお知らせください。保護者の皆様と協働して取り組んでまいります。よろしくお願ひいたします。

## 2月9日(金) 国立市教育委員会研究奨励校 研究発表会を行います!

2月9日(金)は、国立市教育委員会研究奨励校として研究発表会を行います。教科は、「特別の教科 道徳」です。令和4年度、5年度の2年間を通して、学んできています。

今回、この2年間を通してご指導をいただいているのは、創価大学教職大学院で教鞭をとられております教授の石丸憲一先生です。石丸先生は、国語の研究において、様々な著書を出されている先生であり、現在は、道徳も、国語と共に研究されている方です。

研究発表会では、『「ザワつく」道徳授業のすすめ』と題して、ご講演をいただくことになっています。

1月25日(木)には、その石丸先生をお迎えして、校内で行う研究発表会前の最後の研究授業を5年2組で終えました。石丸先生からは、取組においてお褒めの言葉をいただくとともに、最後の詰めのところをご指導いただきました。現在は、当日の発表のための掲示物や様々な配布物の作成、パネルディスカッションの練習等のリハーサル、そして、日々の授業を積み重ねながら、一つ一つ当日のイメージを高め、進めているところです。

この研究発表会には、国立市内の各小中学校の全教員が研修として出席し、本校の各学年の授業や全体での発表を通して、互いに学び合う場となります。様々な制限が緩和された中で行う最初の研究発表会でもありますので、300名以上の各校の先生たちや他市の先生方等が一堂に会することになります。学校の中が先生方でいっぱいになると思われれます。

子供たちにとっても初めての経験であり、忘れられない思い出になるとともに、より良い経験となってほしいと願うところです。保護者の方にご参加いただくことはできませんが、研究発表会の運営のお手伝いとしてPTAの方には、ご協力をお願いしています。また、学校評議員の方には、学校の状況を知っていただくためにもご来校をお願いしています。

目的は、私たち教員の授業力の向上のための授業の改善です。

授業改善により、子供たちの学力の向上につなげるとともに、心の教育の1つとしての取組でもあります。以前にもお知らせしましたが、この2年間の学力調査においては、学力が上向き、向上してきている結果が出ています。私たちも嬉しいところです。



また、学力だけでなく、本校の子供たちの自己肯定感の高さにおいても、依然として高さを維持することができており、更には、学校生活満足度調査においても、より良い結果となっています。

教員の学びと努力がきちんと子供たちに反映されていることは、子供たちが教員の鏡であることの証左であると実感するところです。2月9日は、私たち七小の子供たちと教員にとって、未来に向かっていくための大切なスタートです。これで終わりではなく、「新たな前進のための一歩」を踏み出していきます。

### 来年度に向けた取組について

現在、学校では、来年度の令和6年度の教育課程を編成しています。どのような方針でどのような教育活動を行うのか等を作成し、教育委員会に提出します。また、学校評議員会で説明をして、来年度についての共通理解を図り、学校と保護者、地域の方々と一緒になって、子供たちを育てていくための大切な内容となります。

最終のものではありませんが、現段階でお知らせできるものについて、簡単にお知らせしたいと思えます。

#### ○教育目標における重点

3つの教育目標「かしこく」「やさしく」「げんきよく」から、今年度まで、「やさしく」を重点目標として、様々な取組を展開してまいりました。子供たちの自己肯定感の高さを背景に、挨拶の主体的な取組、下学年への優しいかかわりの姿、地域や保護者の皆様の優しい見守りなど、本校の基盤には、「やさしく」がたくさん見られます。子供たちの良いところを更に伸ばす取組は、成果が多く、来年度においても「やさしく」第3期として、行わせていただきたいと思います。

#### ○土曜授業日の削減

これまで、本校では、土曜授業日として学校公開や授業参観を設定し、できるだけ多くの保護者の皆様や地域の皆様にご来校いただけるようにして、開かれた学校として努力してまいりました。昨今のご家庭における働く環境の変化や児童の生活リズムへの影響、学校評価における保護者アンケート等から、来年度以降、土曜授業日を数日程減らすことで、**振替休業日を減らします**。平日に授業参観日を設けたり、学校行事と連動した形での土曜授業日としたりと、現在の社会状況に応じてまいりたいと思えます。

#### ○自動音声応答機能による電話対応

現在、様々な社会的課題の中で、教員の働き方改革があることは、多くの皆様にご存じのところかと思えます。国立市では、昨年度より自動音声応答機能のある電話機を設置し、教員の勤務時間後の対応において軽減を図れるようにしています。

本校では、今年度まで学校状況を考え、自動音声応答機能による対応を留保してまいりましたが、既に国立市内の多くの学校において、自動音声応答機能での対応となっており、本校においても、**来年度4月より、自動音声応答機能での対応**とさせていただきますこといたします。朝の時間帯についても時間を設定して、自動音声応答にする予定です。

詳細につきましては、改めてお知らせいたします。教員が、元気に子供たちと教育活動を行える職場環境づくりの一環としてご理解をいただきたいと思います。

### 【校長のつぶやき】

1月22日(月)から26日(金)までの5日間に、北秋田市立鷹巣小学校から1名の教員と北秋田市教育委員会から1名の職員の計2名の方が国立市教育委員会との連携の基に、本校と第八小学校に教員研修として来校されました。

北秋田市と国立市は、平成30年(2018年)より友好交流都市として、これまで様々に関係性を高め、取組を行ってきました。しかし、コロナ禍の制限により、連携を止めざるを得ず、令和4年(2022年)の10月から改めて教育現場の取組を再開しています。本校の櫻木主幹教諭がその際に派遣され、鷹巣小学校の子供たちや教員と研修と交流を通して、連携の絆を深めました。

今年度は、先ずは、校長同士が連携を図り、学校だよりや校長室だよりを交換したり掲示したりするところから始めました。また、昨年7月には、鷹巣小学校と本校の教員がオンラインで研修会を行い、教員同士の関係も深めました。今回の1月の交流では、派遣された方に、実際に本校の教育活動を見ていただき、様々に学びを共有し合う会といたしました。

学校における教育活動は、それぞれの学校がある地域性や立地状況等の学校周辺の環境に大きく影響を受けます。互いの学校がどのような地域や環境の中にあるのか、どのように教育活動に活かしているのかを学び合うことは、互いの学校を高め合うこととなります。これからも、鷹巣小学校との連携を深め、両校の子供たちの連携も考えていきたいと思えます。

一度は、北秋田市に行きたいと思う交流でした。